

Advertising Works 2005

2005年夏「www.parco.co.jp」は、ホームページ、携帯サイトと連動し、“楽しさ”、“躍動感のある”ビジュアルを、秋「PARCO SAYS.」は、日頃耳にする、目にする話し言葉を表現に取り込み、何気ない『色々な気持ち』を表現し、木村カエラさんにご登場いただきました。

秋「オトコラシサ PARCO×smart10」は、10周年を迎える雑誌smartと連携を図り、MDキャンペーンを展開します。

2005夏
「www.parco.co.jp」



2005夏
「PARCO グランバザール」



2005秋
「PARCO SAYS.」



2005秋
「オトコラシサ PARCO×smart10」



PARCO

株式会社パルコ

〒150-0045 東京都渋谷区神泉町8-16

TEL: 03-3477-5731 (総務担当)

<http://www.parco.co.jp/>



第67期中間事業報告書

2005年3月1日～2005年8月31日

PARCO



次なる成長ステージへ——
直面する市場競争を勝ち抜き、
あらゆる商業施設開発のシーンで期待され、
求められるディベロッパーをめざします。

代表執行役社長 (CEO) 伊東 勇

1. 当中間期の事業環境と業績について 教えてください。

本業に経営資源を集中させ増収増益を達成しました。

小売業界の状況としては、消費の絶対量は減っていないものの、インターネットなど販売チャネルの多様化が進んだことで、店頭消費は減少傾向にあります。加えて、各都市で大規模商業施設のオーバーストア状態が発生しており、依然として厳しい事業環境が続いています。

このような状況のもと、パルコグループでは、本業に経営資源を集中させ、既存店舗の改装をはじめとする営業の活性化に向けた積極的な投資を行うとともに、財務体質の改善を実施しました。また、事業再編の一環として、当中間期に30年間営業していた岐阜パルコの閉鎖を決定したほか、子会社である株式会社ハレーダビッドソンシティのMBOによる売却を行いました。

こうしたなか、当中間期の業績は、昨年からの大規模な改装効果により、パルコ全店の売上が前年同期比102.6%と伸長しました。とくに名古屋、池袋、渋谷、広島など基幹店舗の売上が好

調に推移しました。このほか、「専門店事業」の伸長により、売上高は1,263億1百万円(前年同期比101.2%)となりました。

また、広告・宣伝費の増加および外形標準課税導入に伴う販売費及び一般管理費の増加はあったものの、営業利益は46億48百万円(前年同期比113.3%)、前期に実施した自己株式の売却に係る費用がなくなったことなどにより、経常利益は45億26百万円(前年同期比119.8%)となりました。

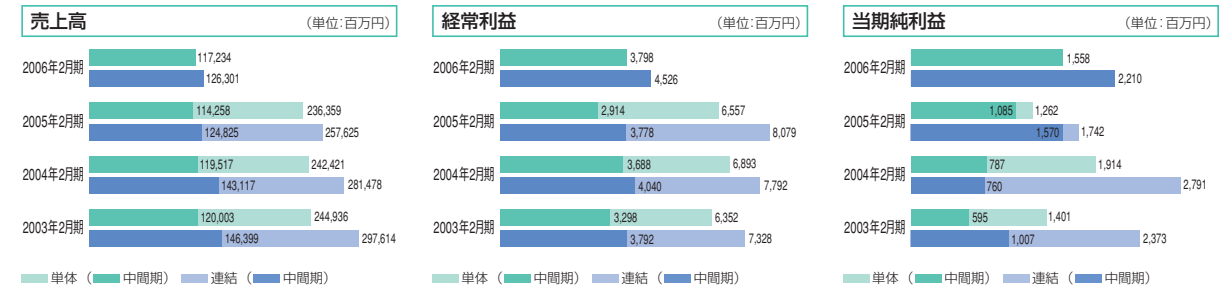
一方で、パルコシンガポールが保有する子会社株式売却益等の特別利益を計上するなど、中間純利益は22億10百万円(前年同期比140.7%)と、増収増益を達成しました。

2. 当期から始まった中期経営5ヵ年計画の 進捗状況は？

新規ビジネス創出および事業領域拡大を推進しています。

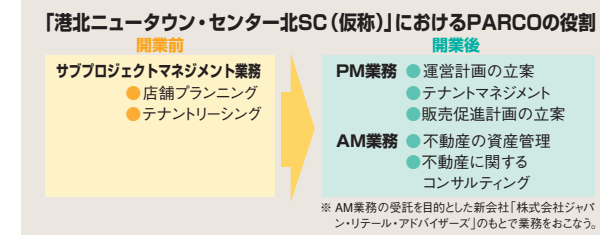
中期経営5ヵ年計画では、①商業施設運営力と開発力の強化、②新規ビジネスの育成と挑戦、③周辺ビジネスの深耕拡大、を三つの柱としています。これらのテーマを着実に推進することで、5年後の2009年度に連結売上3,000億円を達成するという目標を立てました。

連結決算ハイライト



この計画に基づき、まず①に関しては、収益の柱である既存店舗の店舗運営力を強化させるとともに、新規店舗として2007年秋オープン予定の浦和PARCOをはじめ新店プロジェクトを着実に進めています。

次に、②については、不動産流動化ビジネスの動向を見据えたプロパティマネジメント(PM)事業の拡大やアセットマネジメント(AM)の手法を活用した新事業開発など、既存商業施設のM&Aや居抜き物件の転換も視野に入れた新規ビジネス創出への挑戦が必要であると考えています。そのなかで、株式会社イトーヨーカ堂が2005年秋に開業を予定している埼玉県川口市の大型ショッピングセンター「アリオ川口」のPM業務受託に続き、神奈川県横浜市都筑区・港北ニュータウンに2007年春オープン予定の大型複合商業施設「港北ニュータウン・センター北SC(仮称)」のサブプロジェクトマネジメント業務および開業後のPM業務の受託が決定しました。さらに開業後のAM業務を受託する合弁会社を設立しました。この案件を通じてAM業務のノウハウを積み、商業ディベロッパーとして開発に必要なスキーム提案の幅を広げていきます。



また、③の周辺ビジネスの深耕を強化していくために、「エンタテインメント事業」において、PARCO劇場で上演された「舞台版 笑の大学」のDVDタイトルを新規に発売するなどコンテンツビジネスの拡大に取り組みました。また、「総合空間事業」の株式会社パルコスペースシステムズにおいて、24時間コールセンタービジネスの新規契約数が294件増加し、契約総数は合わせて1,350店舗(2005年8月末現在)になりました。「専門店事業」の株式会社ヌーヴ・エイにおきましては、新規で6店舗を出店しています。

3. 継続的な成長を実現するために 注力していることは？

次代を見据えられる人材の育成に積極的に取り組んでいます。

パルコのような業態にとって最も重要な経営資源は“人”であると考えており、人材育成に積極的に取り組んでいます。たとえば、幅広く有能な資質を持った人材を採用するため、経歴を問わず29歳以下の人材を対象に定期採用する「U-29パルコトライアル」という制度を設けています。また、各セクションから30代の中堅社員を選抜および公募し、「パルコビジネスカレッジ」と題して、3年間にわたり毎月経営についての勉強会を開催する活動も行っています。

今後も、引き続き中期経営5ヵ年計画の実現をめざしながら、直面する市場競争を勝ち抜き、さらにその先のパルコに何が求められているかを見据える人材を育てることで、持続的な成長を果たしていきたいと考えています。

時代を切り取るマーケティング、新規テナントの開拓・育成、市場に応じた集客・運営手法の構築を活かして、これまでのパルコにとどまらない新たな取り組みをご紹介します。

渋谷PARCO

2004年秋の「PART3」全面リニューアル、「PART2」上層階改装と、大規模改装を進めてきた渋谷PARCOが、さらなる進化をめざして2005年秋も大幅に改装しました。「PART1」では、レディースフロアに話題のセレクトショップ「ne」「クルーン ア ソング」、メンズフロアにストリートセレクト「エルエイチピー」などを新規導入したほか、「PART3」にも人気ショップ「And A」



渋谷エントランス

が展開するコンセプトショップ「And Accessoire」をオープン。トータル36店舗に及ぶ改装を実施し、時代をリードする都市型ライフスタイルを提案し続けています。



名古屋PARCO

名古屋PARCOは、2004年夏にキッズゾーンを全面改装、2004年秋から2005年春にかけてレディースフロアを大幅リニューアルしました。引き続き2005年秋は、トータルで100のテナ



名古屋エントランス

ントを越え、売上高でも25%を占めるメンズゾーンの改装に着手。本格的な大人のカジュアルが楽しめるフロアへの進化を図りました。「タケオキクチ」「ロイヤルフラッシュ」など人気テナントの内装を最新のデザインにするなど、23店舗をリニューアル。また、レディースフロアにもセレクトショップ「バビロン」や「ブラガ」などを導入し、積極改装を図りました。



既存店の強化

新規事業への取り組み

都市型商業ディベロッパーとして培ったパルコのノウハウを活かして

パルコの拡大



◀ Ario (アリオ) 川口

SC開発を進めるイトーヨーカ堂から、パルコ初の本格的なPM案件として、「アリオ川口」の専門店モール部分の開店前支援業務とPM業務を受託しました。マーケットポテンシャルの高い埼玉県川口市において、GMSと専門店モールの融合による魅力的なSCの2005年秋オープンに向けた準備を進めています。

計画概要

敷地面積	約37,750m ²
営業床面積	約34,650m ²
竣工	2005年11月予定
商業構成	GMS(約14,650m ²)、専門店(約14,700m ²)、シネコン(約5,300m ²)



◀ 港北ニュータウン・センター北SC(仮称)

横浜市都筑区の港北ニュータウンの中心エリアにある横浜市営地下鉄センター北駅前に位置し、2007年春に開業を予定している「港北ニュータウン・センター北SC(仮称)」のサブプロジェクトマネジメント業務および開業後のPM業務を受託しました。センター北駅は2007年度に横浜環状鉄道が乗り入れる計画があるほか、東名高速道路と第三京浜道路いずれのインターチェンジからも近く交通アクセスに優れており、同施設には広域からの集客が期待されています。

計画概要

敷地面積	約18,990m ²
延床面積	約141,400m ²
竣工	2007年春予定
建物構成	地上9階、地下2階(地下1階、地上5階～屋上：駐車場含む)



◀ 仙台PARCO

仙台市の再開発事業の一環として進むJR仙台駅西口の再開発ビル内に、「PARCO」の新規出店を計画しています。地上9階から地下1階までの商業フロアを取得し、2008年のオープンをめざして具体的な開発段階に入っています。パルコにとって東北への初出店となり、広域からの集客を見込んでいます。

開発物件概要

種別	中央一丁目第2地区市街地再開発事業
竣工	2008年春予定
建物構成	地下1階、地上9階
延床面積	約26,000m ²



◀ 浦和PARCO

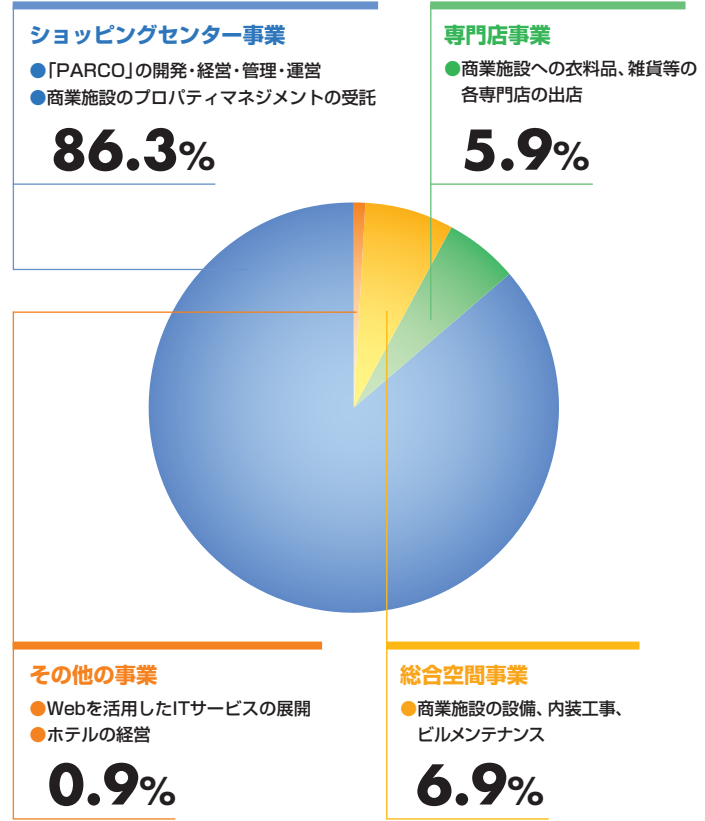
さいたま市が進めるJR浦和駅東口の再開発事業における「PARCO」の新店準備を進めています。郊外型のSCの出店が加速し、競争が激化する浦和エリアにおいて、公共施設やコミュニティ機能も付加した県都の玄関口にふさわしい地域に愛される大型商業施設開発をめざしています。

開発物件概要

種別	浦和駅東口駅前地区第二種市街地再開発事業
竣工	2007年秋予定
建物構成	地下1階、地上7階
延床面積	約66,000m ²

各事業のコア・コンピタンスをもとに
新たな市場開拓と新規事業・サービスの開発へ

当期総売上における構成比

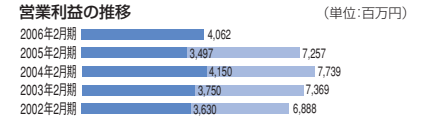
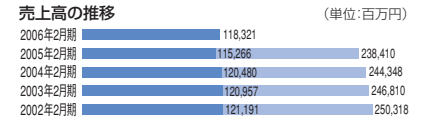


ショッピングセンター事業

商業施設運営力強化とともにノウハウを活かした新規ビジネスに着手

ショッピングセンター事業につきましては、当中間期にパルコ全店で128区画、約16,400m²の改装を実施しました。その結果、渋谷パルコ、名古屋パルコをはじめとする基幹店舗の好調、TV媒体と連動した大型キャンペーンを打ち出した営業企画の奏功もあり、売上高は、1,183億21百万円(前年同期比102.7%)、営業利益は、40億62百万円(前年同期比116.1%)と伸長しました。また、新規ビジネスとして、「港北ニュータウン・センター北SC(仮称)」のPM、AM業務の受託が決まるなど着実な成果が出ています。

海外において子会社のParco (Singapore) Pte Ltdは、シンガポールにおける複合商業施設「パルコ・ブギス・ジャンクション」関連の投資回収を図るため2005年4月にSeiyo Investment (S) Pte Ltdの全株式をのCapitaland Retail (BJ) Investments Pte. Ltdへ譲渡しました。なお、施設の運営ノウハウ提供については、今後も継続します。



(注) 当期より、「ティベロッパ事業」を「ショッピングセンター事業」に変更しております。

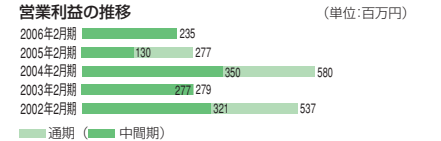
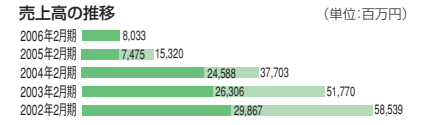


専門店事業

積極的な新規出店と既存店の改装で好調を維持

株式会社ヌーヴ・エイは、業容拡大を図るため積極的に店舗を出店し、当中間期では6店舗の新規出店、既存2店舗の改装を実施しました。部門別では、腕時計販売の「チックタック」事業、眼鏡販売の「ポーカフェイス」事業が特に好調で、同社の売上高は、前年同期比で111.6%と伸長しました。

以上の結果、専門店事業の売上高は、80億33百万円(前年同期比107.5%)、営業利益2億35百万円(前年同期比180.8%)となりました。



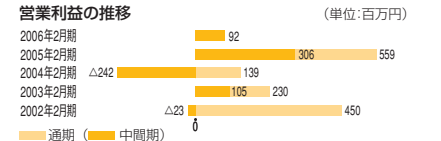
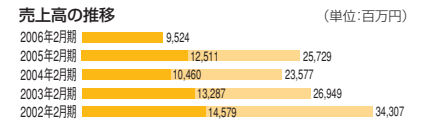
総合空間事業

収益基盤の安定確保と新規顧客獲得へのアプローチを強化

総合空間事業につきましては、株式会社パルコスペースシステムズにおいて、既存顧客の受注の安定確保とパルコグループ以外の新規顧客へのアプローチを積極的に進めました。

売上は、当初の見込みを達成したものの大規模工事のあった前年同期を下回りました。一方、新規事業の24時間コールセンター事業については、新規顧客を294店舗獲得し、契約店舗数は、1,350店舗となりました。

以上の結果、総合空間事業の売上高は、95億24百万円(前年同期比76.1%)、営業利益は、92百万円(前年同期比30.2%)となりました。



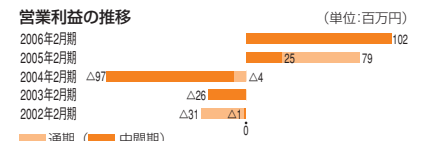
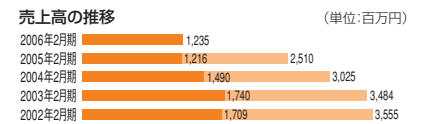
その他の事業

ITサービスを軸に付加価値の向上と収益基盤を強化

株式会社パルコ・シティは、パルコグループ外のネット業務代行や、パルコ自主公演(「ヘッドウィグ・アンド・アングリーインチ」「LAST SHOW」等)チケットや公演収録DVDなどの通信販売が伸長したことに加え、外注コストの合理化が進捗したことにより収益基盤強化が進みました。

株式会社ホテルニュークレストンは、愛知万博効果により名古屋クレストンホテルが高い稼働率を達成したほか、宴会需要もあり売上を伸ばしました。

以上の結果、その他の事業の売上高は、12億35百万円(前年同期比101.5%)、営業利益は、1億2百万円(前年同期比396.8%)となりました。



(注) セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

中間連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当中間期(第67期) 2005年8月31日現在	前中間期(第66期) 2004年8月31日現在	前期(第66期) 2005年2月28日現在
資産の部			
流動資産	27,167	32,885	26,242
固定資産	155,189	168,169	161,750
資産合計	182,356	201,055	187,993
負債の部			
流動負債	43,810	50,621	45,834
固定負債	73,948	85,557	77,651
負債合計	117,759	136,178	123,485
少数株主持分			
少数株主持分	373	2,916	2,746
資本の部			
I 資本金	26,867	26,867	26,867
II 資本剰余金	27,148	27,105	27,107
III 利益剰余金	10,192	8,618	8,385
IV その他有価証券評価差額金	737	445	465
V 為替換算調整勘定	△264	△324	△316
VI 自己株式	△456	△753	△750
資本合計	64,224	61,960	61,760
負債、少数株主持分及び資本合計	182,356	201,055	187,993

資産

子会社であったSeiyo Investment (S) Pte Ltdの株式売却に伴い、関係会社株式ならびに関係会社長期貸付金等が減少。総資産が前期と比較して56億36百万円減少するなど、資産の圧縮を図りました。

中間連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当中間期(第67期) 自2005年3月1日 至2005年8月31日	前中間期(第66期) 自2004年3月1日 至2004年8月31日	前期(第66期) 自2004年3月1日 至2005年2月28日
売上高	126,301	124,825	257,625
売上原価	107,850	106,955	221,114
営業収入	885	813	1,649
営業総利益	19,333	18,682	38,163
販売費及び一般管理費	14,685	14,580	29,722
営業利益	4,648	4,101	8,441
営業外収益	304	451	872
営業外費用	427	774	1,234
経常利益	4,526	3,778	8,079
特別利益	412	299	730
特別損失	1,355	1,110	4,608
税金等調整前中間(当期)純利益	3,582	2,967	4,201
法人税、住民税及び事業税	1,563	890	2,233
法人税等調整額	△209	465	194
少数株主利益	18	40	31
中間(当期)純利益	2,210	1,570	1,742

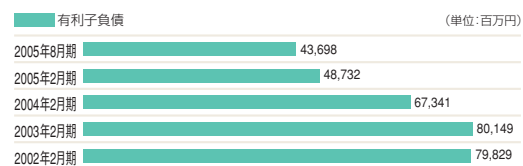
中間純利益

岐阜店の閉鎖及び株式会社ハーレーダビッドソンの株式売却に伴う損失を計上したものの、営業利益の増加及び金融収支が改善した結果、中間純利益は、前年同期と比較して6億39百万円の大幅な増加となりました。

負債

子会社株式の売却による収入を長期借入金の返済に充当したこと等により、負債は前期と比較して57億26百万円減少しました。有利子負債についても、前期より50億34百万円減少しています。

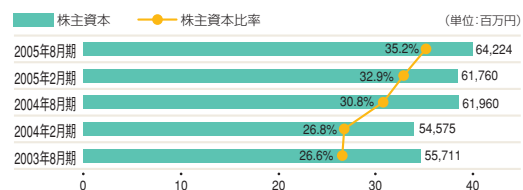
有利子負債



資本

中間純利益による利益剰余金の増加に加え、従業員に付与したストックオプションの行使による自己株式の減少のほか、その他有価証券評価差額金が増加したこと等により、株主資本は24億64百万円増加しました。

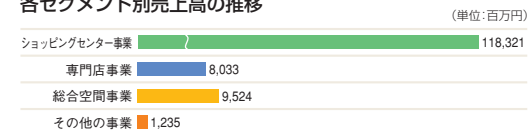
株主資本／株主資本比率



売上高

ショッピングセンター事業における名古屋、池袋、渋谷店等の基幹店舗が好調に推移したことに加え、専門店事業の積極的な出店により、売上高は、前年同期と比較して14億76百万円増加（前年同期比101.2%）となりました。

各セグメント別売上高の推移

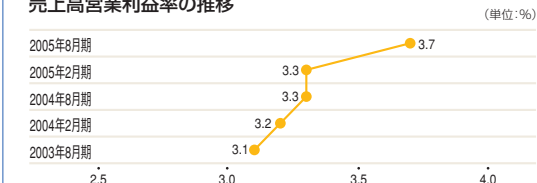


（注）当期より、「ディベロッパー事業」を「ショッピングセンター事業」に変更しております。セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

営業利益

売上高の伸長に伴い、営業総利益が増加。当中間期より外形標準課税導入による販売費及び一般管理費の増加はあったものの、営業利益は前年同期と比較して5億47百万円増加しました。

売上高営業利益率の推移



営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益35億82百万円に非資金項目になる減価償却費や特別損益項目等を調整し、62億56百万円の収入(前年同期は67億91百万円)となりました。

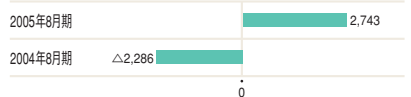
5億34百万円減 (単位:百万円)



投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、店舗改装等による有形固定資産の取得による支出や新規店舗出店に伴う差入保証金・敷金の差入による支出はあったものの、子会社株式の売却による収入等により、27億43百万円の収入(前年同期は22億86百万円の支出)となりました。

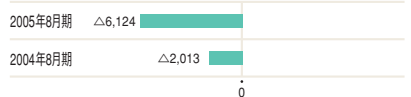
50億29百万円増 (単位:百万円)



財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の売却に伴う収入はあったものの、長期借入金を返済したこと等により、61億24百万円の支出(前年同期は20億13百万円の支出)となりました。

41億11百万円減 (単位:百万円)



中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期(第67期) 自2005年3月1日 至2005年8月31日	前中間期(第66期) 自2004年3月1日 至2004年8月31日	前期(第66期) 自2004年3月1日 至2005年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,256	6,791	10,635
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,743	△2,286	△1,965
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,124	△2,013	△12,731
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	6	4
現金及び現金同等物の増減額	2,889	2,498	△4,056
現金及び現金同等物の期首残高	11,984	16,041	16,041
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	14,874	18,539	11,984

中間連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期(第67期) 自2005年3月1日 至2005年8月31日	前中間期(第66期) 自2004年3月1日 至2004年8月31日	前期(第66期) 自2004年3月1日 至2005年2月28日
(資本剰余金の部)			
I 資本剰余金期首残高	27,107	25,368	25,368
II 資本剰余金増加高	40	1,737	1,739
増資による新株式の発行	—	306	306
自己株式処分差益	40	813	815
転換社債の転換による資本剰余金増加高	—	617	617
III 資本剰余金中間期末(期末)残高	27,148	27,105	27,107
(利益剰余金の部)			
I 利益剰余金期首残高	8,385	7,332	7,332
II 利益剰余金増加高	2,210	1,570	1,742
中間(当期)純利益	2,210	1,570	1,742
III 利益剰余金減少高	404	284	688
配当金	404	284	688
IV 利益剰余金中間期末(期末)残高	10,192	8,618	8,385

中間貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期(第67期) 2005年8月31日現在	前中間期(第66期) 2004年8月31日現在	前期(第66期) 2005年2月28日現在
資産の部			
流動資産	17,492	25,567	19,401
固定資産	165,070	169,290	164,488
資産合計	182,562	194,858	183,890
負債の部			
流動負債	43,446	45,605	42,775
固定負債	73,191	84,859	76,944
負債合計	116,637	130,464	119,719
資本の部			
I 資本金	26,867	26,867	26,867
II 資本剰余金	27,148	27,105	27,107
III 利益剰余金	11,657	10,730	10,503
IV その他有価証券評価差額金	708	443	442
V 自己株式	△456	△753	△750
資本合計	65,925	64,393	64,171
負債及び資本合計	182,562	194,858	183,890

中間損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期(第67期) 自2005年3月1日 至2005年8月31日	前中間期(第66期) 自2004年3月1日 至2004年8月31日	前期(第66期) 自2004年3月1日 至2005年2月28日
売上高	117,234	114,258	236,359
売上原価	102,765	100,235	207,711
営業収入	1,034	866	1,840
営業総利益	15,500	14,887	30,490
販売費及び一般管理費	11,482	11,450	23,278
営業利益	4,017	3,436	7,212
営業外収益	222	209	539
営業外費用	441	732	1,194
経常利益	3,798	2,914	6,557
特別利益	58	219	302
特別損失	1,260	1,096	3,810
税引前中間(当期)純利益	2,596	2,036	3,049
法人税、住民税及び事業税	1,352	732	1,914
法人税等調整額	△314	218	△127
中間(当期)純利益	1,558	1,085	1,262
前期繰越利益	806	1,052	1,052
中間配当額	—	—	404
中間(当期)未処分利益	2,365	2,137	1,911

刺激と発見に満ちた
パルコのエンタテインメント

情報化時代と言われ情報が渦巻く現代においても、パルコのエンタテインメントは、演劇や音楽、映画、出版など様々な形態を通して、良質で、また時代を鋭く切り取った作品を提供し続けています。

パルコ劇場やクラブクアトロ、シネクイントといったパルコ店舗内での企画展開、最近では、外部会場でのパルコ・プロデュース公演も積極展開しています。

また、従来から行っている書籍やカレンダーに加え、公演を収録したDVDの発売、映像作品への権利出資、バンド・マネジメントや写真展催事等、多岐に渡る展開を行い、ネクスト・ビジネスにもトライしています。

<パルコ劇場>



三谷幸喜 作・演出 「12人の優しい日本人」

<コンテンツ・ビジネス>



齋藤孝 著
「孤独のチカラ」

「御教訓カレンダー」

<シネクイント>



木村カエラ主演
「カスタムメイド10.30」
© 2005「カスタムメイド10.30」製作委員会

<パルコ・プロデュース ルアトル銀座公演>



後藤ひろひと 作/G2 演出
「ダブリンの鐘つきカピ人間」

<バンド・マネジメント>



「アナログフィッシュ」

パルコグループ 新オフィスへ移転・統合

渋谷地区で4箇所に分散していたパルコとグループ各社の本部オフィスは、2005年10月初旬、渋谷区神泉町にある新オフィスに移転・統合しました。本部オフィスの統合は、パルコ創業以来初の試みです。

今回の移転・統合の最大の目的は、各社に関連する業務の連携強化と意思決定のスピード化であり、従業員や来社されるお客様に対するホスピタリティの充実です。

これにともない新オフィスでは、ITシステムやセキュリティの強化とともに、機能性や利便性を向上させています。

新オフィスの概要

場所：渋谷区神泉町
フロア数：6フロア(9階～14階)



新オフィスビル外観

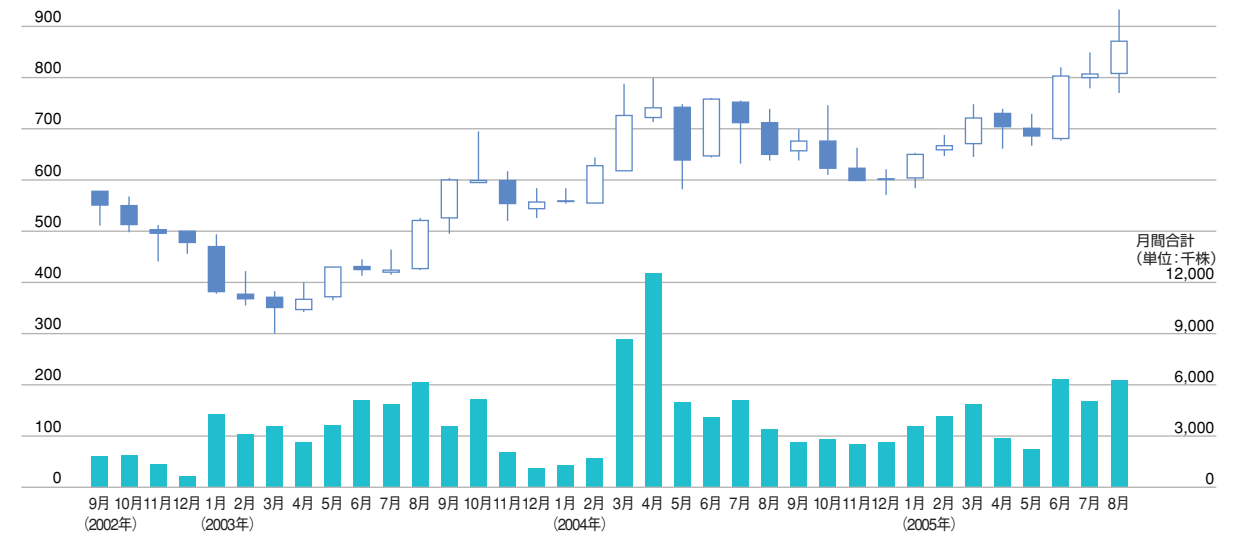
会社が発行する株式の総数 320,000,000株
発行済株式の総数 82,210,781株
株主数 3,984名

大株主(上位10名)

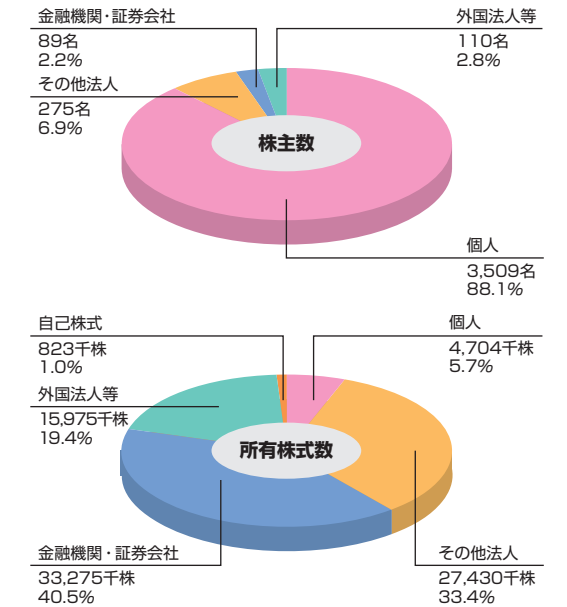
	当社への出資の状況	
	所有株式数(千株)	議決権比率(%)
森トラスト(株)	19,179	23.73
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	9,274	11.47
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	7,768	9.61
(株)クレディセゾン	6,740	8.34
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・リミテッド	2,084	2.58
資産管理サービス信託銀行(株)(年金信託口)	1,474	1.82
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4)	1,429	1.77
ピーエヌバリアバセックサービスロンドンジャスアパティーン アセットマネジメントピーエルシーエージェンシーレンディング	1,307	1.62
(株)みずほコーポレート銀行	1,300	1.61
(株)三井住友銀行	1,209	1.50

株価・出来高の推移

(単位:円)
1,000



所有者別分布状況



社名 株式会社 パルコ

本店所在地 東京都豊島区南池袋1-28-2
TEL:03-5391-8000

本部所在地 東京都渋谷区神泉町8-16
TEL:03-3477-5731

設立年月日 1953年2月13日

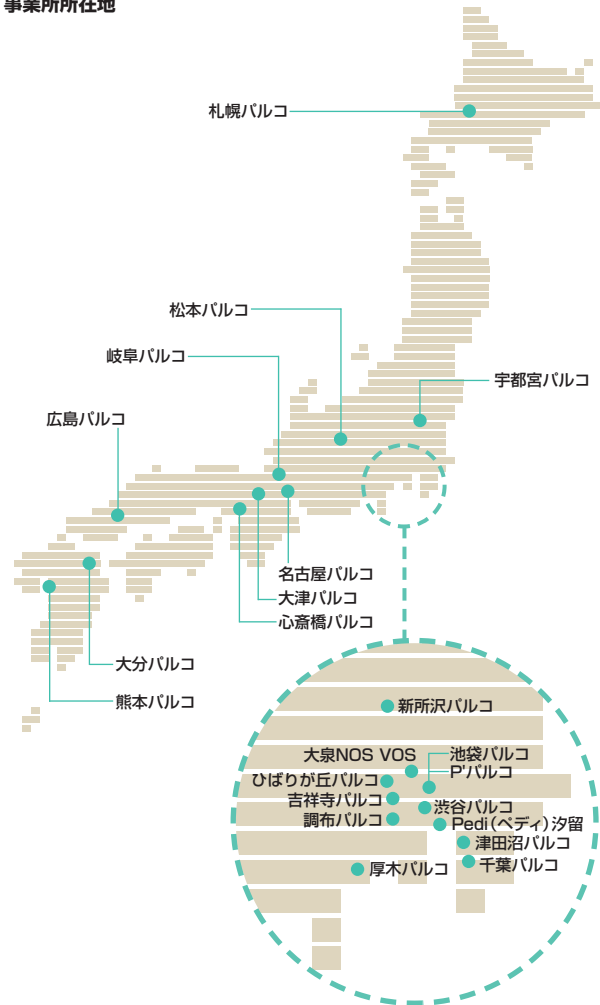
資本金 268億6,738万円(2005年9月30日現在)

従業員数 539名(男性 329名 女性 210名)
(連結従業員数 1,609名)(2005年8月31日現在)

役員

取締役会議長兼代表執行役社長 最高経営責任者(CEO)	伊東 勇
取締役兼代表執行役副社長 最高執行責任者(COO)	坂口 俊郎
取締役兼代表執行役専務	藤島 基照
取締役兼常務執行役	吉岡 猛
取締役兼常務執行役	小嶋 一美
取締役	大野 宗彦
取締役	松田 修一
取締役	土岐 敦司
取締役	宮澤 乘自
取締役	内永 ゆか子
執行役	山田 潤一
執行役	海永 修司
執行役	平出 浩朗
執行役	平野 秀一
執行役	長嶋 高志
執行役	牧山 浩三
執行役	井上 肇
執行役	山崎 浩一
執行役	阿部 正明
執行役	村田 真人

事業所所在地



(2005年9月30日現在)

(注)大野宗彦、松田修一、土岐敦司、宮澤乘自、内永ゆか子の各氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

株主ご優待 <PECカードインターナショナル> を発行いたします

(毎年2月末日・8月31日現在、1,000株以上所有の株主様を対象としております)



パルコでのショッピングが通年**5%OFF**

国内のパルコでのショッピングに、株主ご優待カードをご利用いただきますと、ご請求時にお買い上げ金額の5%を割引いたします。 ※一部割引の対象外となるショップがございます。

- ホテル宿泊料割引(クレストンホテル20%OFF等)要予約
- パルコ内の映画館入場料割引
- パルコミュージアム・パルコギャラリー入場料50%OFF(一部催し物を除く)

映画館で招待券、ギャラリーパス券、カレンダー、書籍もお届けします

当社施設内の映画館ご招待券進呈

- 1,000 株以上の株主様に2枚(年間4枚)
- 5,000 株以上の株主様に6枚(年間12枚)
- 10,000 株以上の株主様に10枚(年間20枚)



パルコギャラリーパス券進呈(1,000株以上)
パス券の呈示で、1名様のご入場が無料となります。

パルコオリジナルカレンダー進呈
8月31日現在、1,000株以上の株主様にカレンダーを2点進呈いたします。

パルコ刊行書籍進呈
2月末日現在、1,000株以上の株主様に当社刊行書籍を1点進呈いたします。

決算期	毎年2月末日	名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年5月に開催	同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	2月末日 (その他必要があるときは、 あらかじめ公告いたします)	(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
配当金受領株主確定日	利益配当金 2月末日 中間配当金 8月31日	(電話照会先)	
1単元の株式の数	1,000株	(住所変更等用紙のご請求)	☎ 0120-175-417
		(その他のご照会)	☎ 0120-176-417
		(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
		同取次所	住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店

● 当社は、単元未満株式の買増制度を採用しております。詳しくは、上記名義書換代理人取次所、または、証券会社各社にお問い合わせください。